

## 第7回なら県民電子会議室運営委員会議事録

1. 日時:平成19年8月25日(土曜日) 19:40～12:10
2. 場所:奈良市北部会館 3階 第3会議室
3. 出席者:奥家孝彦、小山正樹、峠 春樹、林 正泰、遠藤英樹、朝廣佳子、  
大矢智子、掘真寿美、木村新一、鉄田憲男、三宅基之、高津公彦、  
多田充朗、寺村 聰、坂田安男、前川洽治、  
代理/オブザーバー:2名
4. 議題:
  - 【第1部】 ミニ講演会「市民レベルの祭りやイベントの取り組み」  
(株)読売奈良ライフ 代表取締役社長  
兼 地域情報誌「yomi っこ」編集長 朝廣佳子氏
  - 【第2部】 第7回運営委員会
    1. 委員長挨拶
    2. コーディネーター報告
      - (1)自分たちでできるまちづくり
      - (2)みんなで教育について語ろう
      - (3)奈良県の観光戦略について考えよう
    3. 事務局報告
      - (1)広報、アクセス、登録、投稿など
      - (2)19年度下期テーマ
    4. その他
      - (1)18年度の電子会議室のまとめに対する県の報告
      - (2)19年度下期キックオフ大会

## 5. 議事の経過の概要

### 【第1部】 ミニ講演会

(株)読売奈良ライフ代表取締役社長 兼 地域情報誌「yomi っこ」編集長 朝廣佳子氏より「市民レベルの祭りやイベントの取り組み」と題して、奈良の一大イベントに成長した燈花会と平城遷都祭の立ち上げ、成長、定着へと成功さすポイントとして、市民主体の民間主導の基本枠組みと諸要件について、示唆に富む講演を頂いた。

今年の「なら燈花会」は8月5日から14日まで、奈良公園で行なわれた。朝廣氏は、この燈花会の初代会長として5年間、また、「平城遷都祭」の実行委員長として、その発展に尽力され、その取り組みについての苦労や企画について深い感銘をうけた。

平成11年に17万人の来場者、800人のサポーターからスタートしたが今年は68万人の来場者。サポーターは4,500人。定着した。

当初は県や市、企業、寺院、商店街、みやげもの店、鉄道の支援は少なかったが、今や全面支援が受けられている。来場者のデータを収集し懸命に説得してきた成果である。

本物志向、高いクォリティを目指した。

組織(団体)ボランティアよりも一般ボランティアとして長続きさせてきた。入念に練られたスケールの大きい企画によって成功したものと感じた。

## 【第2部】 第7回運営委員会

### 1. 委員長挨拶

奥家委員長より、コーディネーターへの労いと共に、下期もテーマ設定の上取り組みたい。継続は力なりであり、それが実のある成果に結び付いてゆく。また、NPOによる電子会議室の運営は奈良が先進事例と県幹部も評価している。との開会の挨拶があった。

### 2. コーディネーター報告:各テーマについて下記報告があった。

#### (1)自分たちでできるまちづくり

- ・アクセスは多いが投稿が少ない。新議題がでると投稿は増える。議題増が課題。
- ・添付写真枚数を増やせれば、ビジュアルな提案ができ、より投稿がし易くなるのでは。
- ・なら町施策で、もっと有機物的要素も取入れた生活感のある方向が望ましいのでは。

#### (2)みんなで教育について語ろう

- ・議論の整理、方向付けのコーディネーションは難しく、厳しい。
- ・学校の最近の実態が分からず、議論のテンポや材料についていけない人が多い。
- ・広報、宣伝するも、現場の先生やPTAなど学校関係者の投稿が少ない
- ・本会議室は学校関係者の情報収集の場になると思うが。
- ・最近の学校支援地域本部構想など、議論のトレンドは間違っていない。
- ・本会議室が学校への関心を高めるキッカケになればと考える。

#### (3)奈良県の観光戦略について考えよう(詳細配布別紙)

- ・6月後半から7月にかけて、アクセス、投稿が落ち込んだが、その後盛り返している。
- ・議題、主な意見についての内容分析の報告。
- ・所見: 期末に向け、実の上がる議論に注力、専門知識を持つ方の参加で議論の深まり、-1日2回のチェックとアップ投稿の見易さにこころがけたが、キツかった、検索エンジンで引かかるケースが増え、この調子を続けたい、運営委員も書き込みを、県のホームページからの入り易さの改善工夫を尚、コーディネーターから提案のあった県のHPからの入り易さの改善、投稿の写真添付枚数増(2、3枚)については関係部門で検討してゆく。

### 3. 事務局報告

- (1) 広報活動、アクセス、投稿の状況と課題(投稿率アップ、母数増)、
- (2) 19年度下期テーマ

来期テーマ案につき、検討経過と最終3案の説明があり、コーディネーター選定など、最終調整を行い、決定してゆく。

また、登録、事前査読の運営方法について、現行通り継続するか、登録或いは事前査読の何れかのみにするか、事務局でさらに詰め、方向付けしてゆく。

### 4. その他

- (1) 18年度の電子会議室のまとめに対する県の報告

関係部門に広報し、検討している。全てを県政に反映できるものではないが、近々施策推進状況のまとめを行う。

- (2) 19年度下期キックオフ大会

- ・10月6日(土) 開催予定、引き続き懇親会も実施予定。
- ・システム立ち上げ10月1日～5日を目指す。

以上。